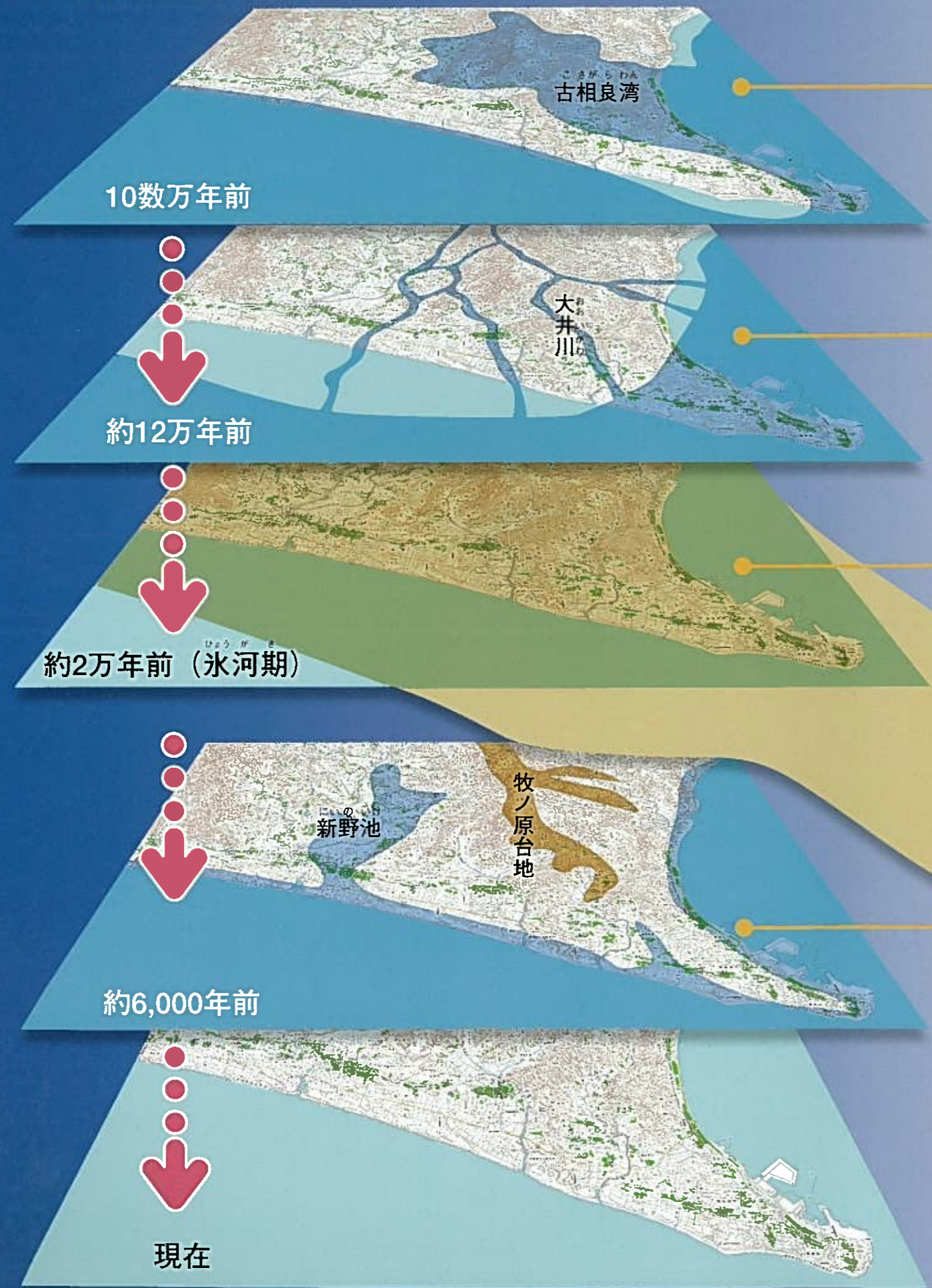


御前崎の土地ができるまで



10万年以上前の御前崎は、古相良湾と呼ばれる浅い湾になっていました。

およそ12万年前になると、大井川が南へ流れ、運んできた土で湾が埋まってしまいました。土地の隆起が進んでいくうちに、牧ノ原台地ができあがっていきました。

3万年前ごろから最後の氷河期を迎え、陸地は今の海岸線よりも100m以上も遠くであったようです。

1万年前ごろから、地球は温暖化に向かい、現在とほぼ同じくらいの海岸ができあがりました。そのせいで、川の河口が石や砂でふさがれて、淡水の湖（新野池や桜ヶ池）ができあがりました。

この池の正確な範囲はわかりませんが、今から3,000年前ごろの朝比奈には、標高24mほどの位置に、縄文時代の低湿地遺跡である小泉遺跡があったことから、この遺跡のあたりまでは新野池が広がっていたであろうと考えられています。浜岡総合運動場から北の水田地帯は、中世に干上がったと中山家の古文書に書かれています。

